

# 1 沿革

本町の市街地中心部はその昔、今市村と称し、相州から上州に通ずる街道にあたり、その枢要な一宿駅として古くからその名を知られていました。鎌倉時代のはじめから戦国時代に至るまで、越生氏の所領であった今市村の周辺一帯は、越生郷と呼ばれ、江戸時代には、旗本知行地・大名領などとして、現越生町域は17ヵ村に分かれました。

明治6年今市村を越生村と改め、明治22年の町村制施行により入間郡上野村・如意村・黒岩村・西和田村・大谷村・鹿下村・成瀬村・比企郡古池村の8ヵ村と合併し越生町となり、さらに昭和30年2月町村合併促進法により、梅園村と合併し現在に至っています。

本町の経済は、昭和初期に至るまで、家内工業としての絹織物と木材建具が栄え、またこの地方の物産、日用品等の集散地市場として順調な発展を続けていました。これらの地場産業は、現在の町の経済に重要な役割を果たしていますが、かつてのようになぎわいはなくなり、代わって梅、ゆずのような特色のある産品で知られるようになりました。

戦後我が国の急激な経済成長、大都市への産業と人口の集中により、近隣市町村が住宅都市化の傾向を強める中で、本町は首都50km圏にありながら、落ち着いた環境を保ってきました。昭和60年代に入って、越生駅東特定土地区画整理事業の完成を見てからは、人口にやや上昇の兆しが見えはじめ、自然増を社会増が上回るようになり、昭和60年に11,661人だった人口が平成10年には1万4千人を超えました。しかし、少子化と若者の町外への流出などにより漸減傾向が続き、平成22年には1万3千人を下回りました。

産業構造も変化し、昭和55年には第一次産業が8.6%、第二次が42.2%、第三次が49.2%でしたが、25年後の平成17年には第一次産業が2.7%、第二次が31.5%、第三次が65.8%となりました。

社会経済状況の変化や農林業就業者の高齢化にともない農地と山林の荒廃が進み、団塊の世代による帰農傾向はあるものの第一次産業は衰退傾向にあり、製造業などの第二次産業も経済情勢の低迷によって減少しています。一方、商業・サービス業などの第三次産業に就業する人口は増加していますが、町内消費は近隣市町にある大型店に流出している傾向が続いています。

近年は、食の安全や健康志向の高まりから、越生の梅・ゆず製品を求める方やハイキングのため首都近郊から訪れる方が年々増えてきています。

(2) 越生町の一行知識

町制施行	明治22年		
位置	東経139度12分～19分 北緯 35度55分～59分		
面積	40.44km <sup>2</sup>		
人口	12,850人 (平成23年4月1日現在)		
世帯	4,920世帯 (平成23年4月1日現在)		
人口密度	317.8人/km <sup>2</sup>		
人口動態	出生 74 転入 317	死亡 138 転出 343	(平成22年度)
予算	4,037,000千円 (平成23年度当初)		
農家数	411戸 (平成22年2月1日現在)		
事業所	563事業所 (平成21年7月1日現在)		
工業	43事業所(従業者4名以上) (平成21年12月31日現在)		
商業	123事業所 (平成21年7月1日現在)		
学校等	保育園 2 小学校 2 高等学校 2	幼稚園 1 中学校 1 専修学校 1	(平成23年5月1日現在)
町職員数	126名 (町長、教育長、 派遣職員含む) (平成23年4月1日現在)		

町民のくらし

世帯の人口	2.61人(平成23年4月1日現在)		
出生	1日に0.20人	死亡	1日に0.38人
転入	1日に0.87人	転出	1日に0.94人
火災の発生	91日に1回(平成22年)		
犯罪の発生	3日に1回(平成21年)		
交通事故の発生	8日に1回(平成22年)		